研究に関するホームページ上の情報公開文書（オプトアウト）

研究課題名：回復期リハビリテーション病棟退院から生活期リハビリテーション利用者における健康関連 QOL の実態および臨床的有用性に関する研究

本研究は新潟医療福祉大学倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。（承認番号 19856-260609）

１．研究の対象

2023 年 4 月 1 日～2029 年 3 月 31 日に，鵜飼リハビリテーション病院を退院後に珪山会（法人内）生活期リハビリテーションを利用予定の方。

２．研究目的・方法・研究期間

研究目的

この研究では、当院退院後に医療保険の外来リハビリや介護保険のリハビリを継続される予定の患者様の健康状態や生活の質（生活の満足度や心身の状態）について調べることを目的としています。

方　法

この研究は観察研究です。研究対象者は、鵜飼リハビリテーション病院を退院後に、法人内の生活期リハビリテーションを利用される方です。通常臨床で実施している回復期退院時～生活期リハビリテーション利用後に定期的に行っている検査のデータベースから情報の収集を行い、生活の質の向上に寄与する要素および生活の質が要介護状態に及ぼす影響を調査することで、質の高いリハビリテーションの提供に向けた基礎資料を得ることを目的としています。

研究期間（利用期間）

2023 年 4 月 1 日～2029 年 3 月 31 日

３．研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、主疾患、性別、当院入院日数、世帯構成人数、世帯収入（1～8 段段階）、教育歴（ISCED 分類）、要介護認定度、利用サービス、併存疾患（CCI）、栄養状態（BMI）、健康関連 QOL（SF-8、EQ-5D-5L）、身体機能（握力、SPPB）、精神機能（MMSE-J、GDS-5）、活動（修正 BI、LSA）、社会参加（LSN-6、CIQ）

４．外部への試料・情報の提供

特に行いません。

５．研究組織

研究責任者：

新潟医療福祉大学大学院　医療福祉学研究科　　佐藤　英人

研究指導者：

新潟医療福祉大学大学院　医療福祉学研究科　教授　能登　真一

共同研究機関：

医療法人珪山会　鵜飼リハビリテーション病院　佐藤　英人

６．除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

新潟医療福祉大学大学院　医療福祉学研究科/医療法人珪山会　鵜飼リハビリテーション病院
担当者：佐藤　英人（大学院生）
医療法人珪山会　鵜飼リハビリテーション病院
住所：愛知県名古屋市中村区太閤通４丁目１
電話番号：052-461-3132

名大単独研究用

2026 年 5 月 16 日作成　Ver.1

研究課題名「脳卒中患者における『動作を伴うコミュニケーション』が患者満足度と理学療法士の臨床推論に及ぼす影響」に関する情報公開

１．研究の対象

本研究の対象者は、2025 年 10 月 14 日から 2026 年 4 月 26 日の間に、鵜飼リハビリテーション病院にてリハビリテーションを受けた脳卒中患者さんと、同期間に同病院に勤務していた理学療法士のうち、「『動作を伴うコミュニケーション』の患者の主観的訴え抽出に対する効果（承認番号：7 鵜リハ第 33 号）」への参加に同意され、データの二次解析に同意いただいた方を対象とします。

２．研究目的・方法・研究期間

研究目的：

脳卒中患者はセラピストとの効果的なコミュニケーションを望んでおり、このことはケアの質に影響すると言われています。コミュニケーションには、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションがあり、後者には身体動作が含まれます。理学療法の診療場面では、患者の動作遂行を媒介にしたコミュニケーションを行うという特徴があります。このような「動作を伴うコミュニケーション」が、患者と理学療法士の双方にどのような影響を及ぼすのかについては十分に検証されていません。本研究の目的は、患者と理学療法士間の「動作を伴うコミュニケーション」と「動作を伴わないコミュニケーション」を比較することによって、「動作を伴うコミュニケーション」では患者の主観的発言がより多く引き出され、患者満足度および理学療法士の臨床推論にどのような影響を及ぼすのか検証にすることです。

研究方法：

本学で新たに行う研究では、新たなデータ取得はありません。上記の既存研究で得られた仮名加工化されたデータを鵜飼リハビリテーション病院の管理者から提供していただき、二次解析を行います。二次解析として、統計解析およびテキストマイニングを行います。

研究期間：実施承認日　～　（西暦）2029 年 3 月 31 日

３．研究に用いる試料・情報の種類

対象患者の疾患名、年齢、性別、MMSE の得点、FIM 総得点および病前移動能力
理学療法士の年齢、性別、実務経験年数、患者と PT とのコミュニケーション場面で遂行された動作の種類と遂行時間、患者と PT とのコミュニケーション場面の会話内容のテキストデータ、アンケートの回答

４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方および理学療法士の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんおよび理学療法士の方に不利益が生じることはありません。

連絡先：名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻
予防・リハビリテーション科学・教授・内山靖
住所：名古屋市東区大幸南一丁目１番 20 号　内山靖　研究室
直通電話番号：052-719-3155（内山）
e-mail：uchiyama.yasushi.f9@f.mail.nagoya-u.ac.jp

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻
予防・リハビリテーション科学・教授・内山靖

研究分担者：名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻
博士課程（後期課程）　　柳瀬由起子

----------以上